

「健康で日本を元気に」シンポジウム
－国・地方を通じた経済・財政再生プランについて－

「経済・財政再生アクション・プログラム」は、国・地方を通じたボトムアップの改革によって、住民サービスの質の改善と合理化を進めていこうとするものであり、特に、高齢化に伴い医療・介護費の増大、労働人口の減少等が予測されるなか、健康づくり・疾病予防に関する取組を企業、関係団体、住民等に広く浸透・拡大を図っていくことを重視している。このため、本委員会での議論の内容や問題意識を広く発信することを企図し、「健康で日本を元気に」シンポジウムを福岡会場と東京会場の2か所で開催した。

1. 開催概要

【福岡会場】

○日時：6月15日（水）13:15～15:30

○参加者数：109人

○会場：エルガーラホール（福岡県福岡市中央区天神1-4-2）

○プログラム

13:15 基調講演（30分）

・高橋進 日本総合研究所理事長、経済財政諮問会議議員

13:45 先進・優良事例の紹介（映像）（15分）

14:00 パネルディスカッション（90分）

・高橋進 同上

・松田晋哉 産業医科大学教授、経済・財政一体改革推進委員会専門委員

・横倉義武 日本医師会会長

・北川晴雄 全国健康保険協会大支部長

・谷昭子 熊本市健康福祉局保健衛生部健康づくり推進課 副課長

・森美奈子 NHK 福岡放送局キャスター

【東京会場】

○日時：6月16日（木）12:45～15:00

○参加者数：277人

○会場：泉ガーデンギャラリーイベントホール（東京都港区六本木1-5-2）

○プログラム

12:45 基調講演

・伊藤元重 学習院大学国際社会科学部教授、経済財政諮問会議議員

13:15 先進・優良事例の紹介（映像）（15分）

13:30 パネルディスカッション（90分）

・新浪剛史 サントリーホールディングス株式会社代表取締役社長、経済財政諮問会議議員、経済・財政一体改革推進委員会会長

・古井祐司 東京大学政策ビジョン研究センター特任助教、経済・財政一体改革

推進委員会専門委員

- ・ 川勝平太 静岡県知事
- ・ 黒田祥子 早稲田大学教育・総合科学学術院教授
- ・ 宮島香澄 日本テレビ解説委員

2. 実施内容

○基調講演（福岡会場：高橋進、東京会場：伊藤元重）

「国・地方を通じた経済・財政再生プランについて」

- ・ 経済・財政一体改革の概要
- ・ 主要分野毎の課題（社会保障・社会資本整備・地方行財政）
- ・ 見える化と先進・優良事例の横展開

○先進・優良事例紹介

- ・ 愛知県豊川市：健康課題の「見える化」
- ・ 長野県飯田市：関係者間の連携による医療・介護提供体制の構築
- ・ 静岡県：健康長寿プロジェクト
- ・ 熊本県熊本市：関係者間の連携による健康づくり

○パネルディスカッション（主なご発言のみ記載）

【福岡会場】

（1）パネリストからの資料説明

- ・ 横倉 義武：健康づくり・疾病予防と経済・財政再生プラン
- ・ 谷 昭子：熊本市のCKD対策
- ・ 北川 晴雄：中小企業を対象とした県と協会けんぽが連携した健康経営促進事業

（2）パネリストによる討論

- ・ 社会保障制度を維持するためにも、トップダウンではなく、ボトムアップのアプローチで無理なく仕組みを変えていくことが必要。
- ・ 成功している事例は、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを上手く組み合わせている。きちんとレセプトを活用し、データ分析をしていくことが重要。
- ・ 地域で行政、保険者、医療提供者、医師会などが連携して取り組むことが重要。



（3）質疑応答

- ・ 質問：COPDの取組をしている。COPDの認知度向上、早期発見、早期治療に繋げるために、かかりつけ医と連携を図るヒントをいただきたい。
→COPD対策推進会議では全国展開のため、都道府県の医師会に設置をお願いし

ているところである。

→以前の活動においては、肺年齢測定推進の啓発をした。COPDの恐ろしさを知ってもらい、それを契機に禁煙してもらえよう取り組んでいた。

- ・質問：データヘルス計画、特定健診、ジェネリックの使用促進に取り組んでいる。健康保険と加入会社の連携について、規模も業種も違う加入会社が効率よく連携する方法などをご教示いただきたい。

→規模や業種が違う、そういった企業群に一律に情報提供したり、一律で対応できるものはやっていくべき。

→さまざまな階層に企業を区分けし、企業に向けてポイントを絞ってアプローチを行うことを考えている。

- ・質問：本町には大きな病院がなく、腎臓専門医もいないため、町単独で連携体制を整備することが難しい。町外の医療機関を含めた連携体制の構築についてアドバイスをいただきたい。

→医療機関との連携については、一人ひとりの医者を訪問するなど地道なアプローチが重要。住民が通っている町外の主治医にアプローチすることや、県、医師会と連携していくことが有効ではないか。

(4) 総括コメント (高橋進)

- ・企業の意識はかなり変わってきた。今後は中小企業や個人事業主、国民健康保険加入者の意識の改革が必要であり、最終的には個人の意識を変えることが重要である。
- ・現場の声を政府に対してお知らせいただくことが重要である。それを受けて、政府は改善をしていくべきある。

【東京会場】

(1) パネリストからの資料説明

- ・古井 祐司：Japan Model のすすめ
- ・黒田 祥子：健康と経済
- ・川勝 平太：健康寿命日本一に向けた“ふじのくに”の挑戦

(2) パネリストによる討論

- ・先進・優良事例を横展開することが財政にも社会保障にも役に立つ。とりわけ、予防医学の重要性が高い。
- ・日常の生活動線上で、人々が健康を意識する仕組み作りが必要。
- ・現時点においては健康を経済や財政上の重要課題と位置付けている状況とは言えない。人々の意識を変えていくには一層の工夫が必要。



- ・労働力人口が減少する中、労働生産性を上昇させることが求められているが、こうした観点からも健康は重要。

(3) 質疑応答

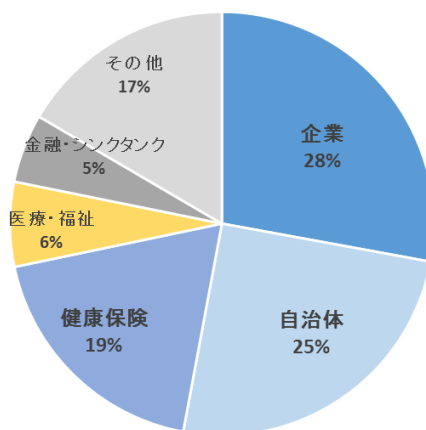
- ・ 質問：薬局を事業として行っているが、医療・治療だけでなく、健康づくりへどのような貢献が出来るかヒントを頂きたい。
→健康づくりには起点が必要。薬局には自営業の方や主婦の方などにとっての健康づくりの拠点になって頂きたい。その為には、住民の方と継続してコミュニケーションをとることが出来る仕組みを構築することが重要。
→投薬により病気を治すという従来の役割に加え、栄養指導などを通じ、住民の健康づくりをサポートしていくことも求められているのではないかと。
- ・ 質問：健康経営が利益に直結する経営の重要な手法である点や、健康な状態で仕事をすること自体に価値があることを、経営者、従業員が共に認識することが必要不可欠だと思うが、広く普及させるためにどのような戦略が必要か。
→健康になると経営が改善するといった、データに基づいたエビデンスを示すことで啓蒙を行うことが重要。
- ・ 質問：地域・職域連携推進事業などを担当しているが、なかなか成果があがらずに苦労している。地域一体となった健康づくりを成功に導くポイントなどがあれば教えて頂きたい。
→多くの方がプロジェクトにコミットすることが重要。その為には、首長をはじめとした、責任の大きな人が現場に出てコミュニケーションをとることが必要。

(4) 総括コメント (新浪剛史)

- ・ 経済・財政一体改革の中で健康についてとり上げているのは、国民一人ひとりがより健康になることで、QOL (生活の質) が向上するためである。また、より健康になることで、例えば元気に働ける高齢者が増え、かかる医療費も削減されるなど、経済成長や財政の改善にもつながる。社会全体で取組を継続していかなくてはならない。

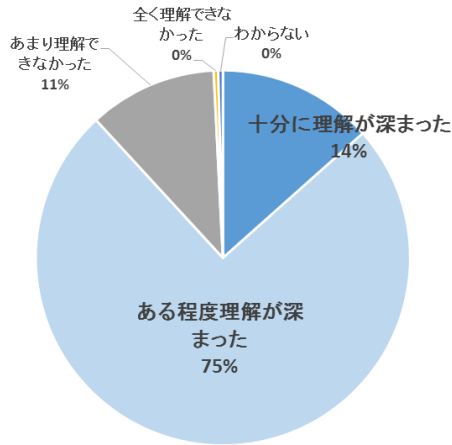
3. 申込状況、アンケート結果

(1) 申込状況 (n=495、申込者数ベース)

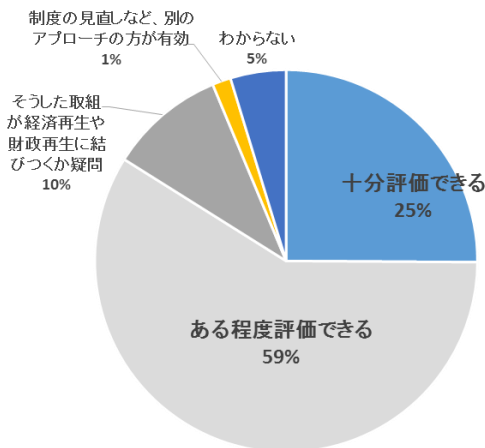


(2) アンケート結果

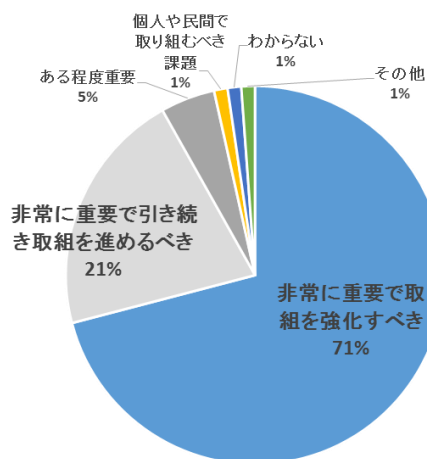
- ・政府が取り組んでいる「経済・財政再生計画」について、理解が深まりましたか。
(○は1つ、両会場)



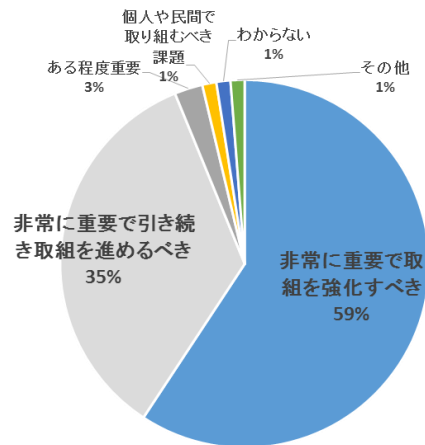
- ・経済・財政再生プランの健康づくり、疾病予防、コンパクトなまちづくり、もう一段のIT化などの改革のアプローチについてどの様に感じますか。(○は1つ、両会場)



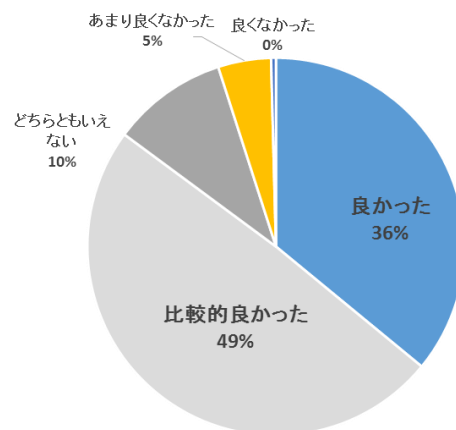
- ・地域の健康づくりや企業の健康経営の普及などを経済政策、財政政策上の課題と位置づけた取組についてどの様に思いますか。(○は1つ、東京会場)



- ・ 行政、医療機関、保険組合、地域などが一体となった、健康づくり・疾病予防のための取組の現状についてどのように思いましたか。（〇は1つ、福岡会場）



- ・ シンポジウムの運営（進め方）についてお答えください。（〇は1つ、両会場）



以上